

郊外型ニュータウンをニューコミュニティに——大阪府南東部にある河内長野市の郊外型ニュータウン、南花台団地。少子高齢化の波にさらされるなかで、新たなコミュニティづくりが進められている。地域の人々が主体となった地域再生をどのように実現しているのか。この課題に対し2014年から河内長野市、UR都市機構、関西大学は連携して取り組んできた。河内長野市の島田智明市長、UR都市機構の村上卓也、西日本支社長(理事)、関西大学の芝井敬司、理事長にニューコミュニティへの思いを語っていただいた。(池田知隆)



大阪府河内長野市南花台地域で スタジアム一体型公園を核に 「ニューコミュニティ」へ



「ニュータウン」から「ニューコミュニティ」へ

南花台地域
まちづくりの新しい取り組み

島田智明市長
大阪、関西万博が開催される2025年から段階的に、UR賃貸住宅のすぐ隣にサッカースタジアム一体型の公園を整備される予定です。遊歩道や遊具施設も備えた開放的な南花台中央公園(仮称)です。

スタジアムは、スーパーマーケット「コノミヤ」がメインスペース「コノミヤ」がメインスペース



河内長野市
市長
島田 智明氏

ンサーの日本女子サッカーリーグ「スレランツァ大阪」(なでしこリーグ所属)の本拠地になります。

村上卓也 UR西日本支社長
URでは団地の建て替えや集約といった事業において生み出した土地を社会の情勢の変化に応じ、利用できるような図っています。その一環で南花台団地では公園用地として市に売却する形で協力しました。公園の新設は地域の資産価値を上げる鍵になり、これからのまちの活性化のために尽力していきたいですね。

芝井敬司 関西大学理事長
関西大学では10年前から南花台を研究フィールドにしています。教員や学生たちが地域再生や団地の集約事業などをめぐるさまざまな提案をし、事業者や住民の方々と一緒に具体化してきました。これからは地域の方とのワークショップなどで将来像を描きながら、課題の解決に向けて大学としてお手伝いしたい。

南花台地域の将来像とは
島田 南花台地域は、「丘の生活拠点」と位置づけられており、スマートエージェンシー・シティのモデル地区として国や大阪府とともにもちづくりを進めています。村上 どのようなまちを目指すのかという計画に合わせて土地利用を図ることが基本的なスタンスになります。国も少子高齢化をめぐり施策を取り上げていますが、高齢者の方々が入れ替わっていく地域にはなるべく子育て世帯を呼び込んだ方がいいと思います。

もともとニュータウンは公園や道路などはしっかり整備さ



UR南花台団地より南花台中央公園(仮称)整備予定地を臨む



コノミヤ2階にあるコミュニティスペース「コノミヤテラス」をはじめ、公園整備予定地などで様々な交流が生まれている

関西大学の関係者が常駐され、地域の方の相談や活動を支援していただいています。コノミヤテラスにより、コミュニティがさらに発展できる土台ができました。

村上 URの一定規模の団地には必ず集会所があります。南花台では多世代が一緒に食事する機会として「ごはんや」を開催できるような地域の皆さんに場所の提供をしています。ご飯を食べることは人間関係の基本で、集まった人たちが気軽に話せる場としても大事です。そこから助け合いや共助の動きが生まれてきます。

芝井 コノミヤテラスでは研究室の教員、学生だけではなく、卒業生も参加してコミュニティ拠点づくりに取り組んでいます。多世代の交流を生み出す機会にもなり、学生たちにとっても、そのことで成長しているようにです。

さらにスレランツァ大阪は地域の活性化や地域の方のコミュニケーションをめぐってすく効果があります。スポーツには自分がなくても、「観るスポーツ」「支えるスポーツ」もあります。女子サッカーを通して



UR都市機構
理事・西日本支社長
村上 卓也氏

住宅街特有の宅配便などの路上駐車にも対応した完全自動運転の実装を実現したいと考えています。少子化対策では「ふれあいテラス」という親子が集って交



関西大学
理事長
芝井 敬司氏

流したり相談したりできる場を設けています。コノミヤテラスで議論する中で生まれ、子育て世代が和気あいあいとした空間を作っています。

芝井 将来、どんなまちにしたいのか。すべての人たちが一堂に会してまちづくりの現状を語り、意見交換する「総合研究会」という場を設け、現地に住み着いて活動している卒業生が担当しています。まちの情報を掲載した「コノミヤ通信」を毎月発行し、地域の全住戸に配布しています。

島田 「コノミヤ通信」でも紹介していますが、南花台のプラットフォームを推進しています。クルクルは自動運転も実施しているカーットの愛称。キャッチフレーズは「のりあいからふれあいへ」。つまり、クルクルは移動支援だけではなく、多世代がコミュニティを行える場でもあるのです。

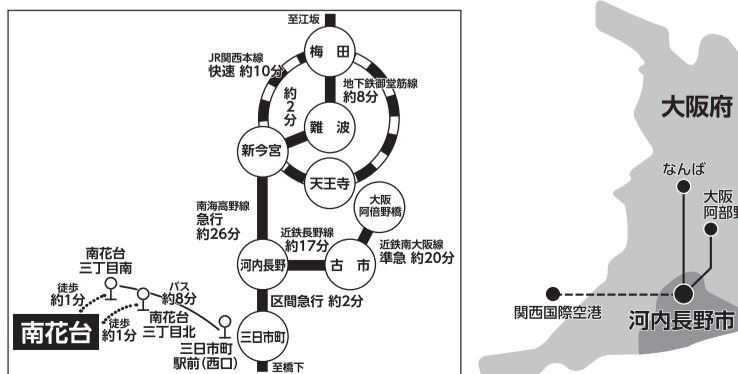
テクテクはテクノロジー、先進技術のことです。これからその内容を着実に進化させ、全国的にアピールしていきたい。多くの人に実際に住んでみたいと思っただけでなく、なごり欲しいですね。

新たな層を呼び込むために
村上 この団地では新たな入居者層を呼び込む施策として、特定住戸にはDIYで希望の住まいを実現したいという方も団地にお住まいいただけます。そのモデル住戸も完成し、定期的に内覧会を開いています。

あと教育環境もすくく大事です。市が進めている小中一貫教育推進校(2024年



環境に優しい自動運転の低速電動カート「クルクル」



河内長野市
人口総数: 99,226人、世帯数: 47,535世帯(2023年12月末現在)。総人口は昭和40年(1965)前後からの大規模な住宅団地の開発により、平成12年度末(2000年度末)の123,617人をピークに減少傾向に転じている。大阪府下の市では最も高い高齢化率であるが、時事通信社が発行する「全国自治体行政サービス改革度ランキング2023」で市区町村のトップとなり、積極的に行政改革に取り組んでいる。

南花台地域
1982年にまちびらきしたニュータウンで、南海高野線の三日市町駅からバスで10分ほどの丘を造成し、戸建て、UR都市機構の賃貸住宅、マンションなど、多様な住居が整備された。ピーク時の人口は約14,000人。現在(令和5年12月末)は約3,316世帯、6,794人前後とピークの約1/2。令和5年3月末時点で、高齢化率は47%に達している。